

③ 平成20年度～平成23年度自転車の関わる事故等の一覧表(構内および構内近傍の路上のみ)

年度	番号	月	日	曜日	事業場	部局名	災害の種類	作業の種類	事故の型	災害状況・傷病名	今後の対応(該当部局回答)	休日数	性別
20	22	7	10	木	吉田	東南アジア研究所	労働災害	(H)その他	交通事故	勤務時間内、学内を自転車で移動中、自転車同士でぶつかった・鼻等負傷		0	男
20	67	11	28	金	病院	医学部附属病院	労働災害	(H)その他	交通事故	敷地内の地下道を自転車で走行中、対行してきた別の自転車と接触し転倒した。右肘関節脱臼骨折。		3	男
21	6	4	23	木	吉田	理学研究科	労働災害	(H)その他	交通事故	別棟への物品納入確認のため自転車で移動中、不意に飛び出してきた自転車と接触。転倒し全身強打。京大病院にて受診し、右手小指と顎部位に擦り傷、右手首捻と診断された。休業なし。	自転車に乗る際は安全運転を心がけ、前方をよく確認し、スピードを出しすぎないようにする。	0	男
21	14	5	22	金	病院	医学部附属病院	労働災害	(H)その他	交通事故	南西病棟から外来棟へ自転車で移動中、ブレーキをかけたところ雨のためタイヤが滑り、地下通路に突入し、転倒した。左膝骨折、打撲、切り傷。休業なし。	雨の日には自転車に乗らない。	0	女
21	60	12	1	火	吉田	経済研究所	労働災害	(H)その他	交通事故	勤務時間中、吉田構内附属図書館北東側の交差する四つ角で、自転車で図書館北側通路を東向きに走行中、南下してきた軽トラックの側面に衝突、転倒した。救急車で病院に運ばれたが、意識もあり検査結果も異常はなく、頭部にたんこぶができた程度である。休業なし。	業務遂行中の事故は誰にでも、どのようにでも起こりうることであり、勤務に際しては充分気をつけなければならないということは、研究所採用時の安全衛生教育として、全雇用者に対して行っていることである。今回の事故は、特に業務内外を問わず日常起こりうるのと同様の危険が業務中に起こったケースと言えるが、今後の雇い入れ時安全衛生教育の際には、研究所の所員にこういった事例があったということを伝え、再発の防止に役立てたい。	0	男
22	40	8	2	月	吉田	情報学研究科	通勤災害	(G)通勤・通学時の事故	交通事故	職員が駐輪場から自転車に乗り歩道へ出たところ、左側から直進してきた自転車と接触、転倒し右半身を強打した。	駐輪場から歩道に出る際に一旦停止を行わなかったこと、相手側の右側通行及び歩道上でのスピードの出し過ぎが原因と考えられ、教職員に対して通勤時における注意喚起を行う。	5	女
22	76	11	25	木	吉田	理学研究科	労働災害	(H)その他	転倒	会議終了後、自転車に乗ろうとしたとき足を滑らせ転倒し腰を強打した。(構内)	早く追いつこうとし冷静な判断ができなかったことが原因で、時間の余裕を持つようにする。学内に注意喚起を呼びかける。	0	男
22	103	2	18	金	桂	工学研究科	学生災害	(G)通勤・通学時の事故	転倒	自転車で通学途中に持病の発作が起こり転倒した。(近くの路上)	前日に服薬していなかったことが事故の原因と思われ、今後服薬を忘れないことと今回の発作についても主治医と相談し適切な対応を行う。	0	男
23	3	4	11	月	吉田	産官学連携本部	通勤災害	(G)通勤・通学時の事故	転倒	自転車で通勤途中、道路で転倒し負傷した。(近くの路上)	始業時間に間に合うよう急いでいたことが原因で、より安全なスピードで乗るようにする。	1	女
23	6	4	14	木	吉田	工学研究科	学生災害	(H)その他	交通事故	自転車で走行中、デリバリー車と衝突、転倒し負傷した。	学生への交通安全指導の強化を検討し、対応策を相談。学内の交通事故は全学としての対応が必要であり、学生、出入り業者等に注意喚起の通知、掲示等を行う必要がある。	1	女

③ 平成20年度～平成23年度自転車の関わる事故等の一覧表(構内および構内近傍の路上のみ)

年度	番号	月	日	曜日	事業場	部局名	災害の種類	作業の種類	事故の型	災害状況・傷病名	今後の対応(該当部局回答)	休日数	性別
23	22	5	9	月	吉田	生命科学 研究科	通勤災害	(G)通勤・通学時の事故	転倒	自転車で出勤途中に、自動車を避けようとしてガードレールに衝突した。(近くの路上)	当人に対して安全運転に努めるよう注意し、研究科内に安全運転を心がけるよう周知し注意喚起を行った。	0	男
23	18	5	10	火	吉田	薬学研究 科	学生災害	(G)通勤・通学時の事故	転倒	自転車で通学時に傘を右手ハンドルにかけて走行中、傘が前輪のスポークに引っかかり転倒した。	自転車の走行について十分注意するよう指導するとともに機会を見て研究科内に注意喚起を行う。	0	男
23	25	5	26	木	桂	工学研究 科	学生災害	(G)通勤・通学時の事故	転倒	授業を受けるため自転車で門に入った際、前輪に傘が引っかかり転倒した。	授業開始時間が迫っており急いでいたことが原因で、余裕を持って登校すること、自転車走行には十分注意するよう指導した。	0	男
23	33	6	8	水	吉田	施設部共用施設 アセットマネジメント センター	通勤災害	(G)通勤・通学時の事故	交通事故	駐車場へ入るため左折した際、後方から直進してきたバイクが接触した。(入構時)	左折する際の後方への注意が散漫であったこととバイク運転者の前方不注意が原因であり、左折する際は後方への注意を怠らないことと、事故について部局内へ周知し注意喚起を行う。	0	男
23	34	6	6	月	桂	工学研究 科	学生災害	(G)通勤・通学時の事故	転倒	自転車で通学途中に人を避けようとして転倒した。(入構時)	運転者の注意が十分でなかったことが原因で、工学研究科附属環境安全衛生センターのセンター通信に事例を掲載し注意喚起を図る。	4	男

年度	構内及び大学 周辺公道での 自転車事故件 数推移
H20	2
H21	3
H22	3
H23	7

